

論文

スウェーデンの障害児者に対する学校教育と社会教育の教育課程 の接続

Connection of Educational Curriculum of School Education and Social Education for Children and
Persons with Disabilities in Sweden

松田弥花 (東京大学大学院)¹

是永かな子 (高知大学教育学部・高知ギルバーク発達神経精神医学センター)²

MATSUDA Yaka¹, KORENAGA Kanako²

1, Graduate School of The University of Tokyo

2, Faculty of Education, Kochi University・Kochi Gillberg Neuropsychiatry Centre

ABSTRACT

The aim of this paper is to analyze the connection of the educational curriculum of school education and social education for children and persons with disabilities in Sweden. Firstly, at the compulsory educational stage, the intellectually disabled basic school where relatively mild intellectual handicapped children go is usually provided the same subject as the basic regular school. The training schools where severely mentally handicapped children attend school were the areas where integrated subjects were composed, so that learning activities could be composed according to individual needs. Learning of such subjects was handed down to upper secondary schools for children with intellectual disabilities as secondary education. Specifically, in high school for children with intellectual disabilities, since the fall of 2013, there are mainly 9 programs, learning what is necessary for transition to social life, maintaining thematic learning as a common theme. And on the individual programs, children will learn with a focus on practical training. The former is targeted for children with relatively mild intellectual disabilities and the latter is targeted for children with relatively severe intellectual disabilities. As educational guidelines for children with intellectual disabilities say, connection to lifelong education is aimed, and in adult education, education for adults with learning disabilities are established in response to the common educational system of the municipals. Also, in Sweden there is an adult educational facility which is a folk high school with dormitories, and it is continued that not only school education but also social education, and as one of its curriculums is that there is "adult handicapped student course". From the examination of the educational curriculum of a folk high school for people with disabilities, there were three features of the course as follows. 1: a course aiming to obtain high school graduation degree certification, 2: a basic course aiming at "participation", and 3: a course to acquire IT skills regardless of disability. Meanwhile, there was an assistant training course for nurturing persons with disabilities at the folk high school with "adult handicapped person course", and it was also a place for both disabled and non-disabled people to learn. From this research it was clear that the places where adults such as folk high school learn have complementary functions of school education.

1. 研究の目的と方法

スウェーデンにおける知的障害児者を対象とした教育制度は、就学前には特別な教育機関は存在せず、義務教育段階に知的障害特別学校(Grundsärskola)、後期中等教育段階に知的障害高等学校(Gymnasiesärskola)がある。知的障害高等学校卒業後の進路は、民衆教育の軸として主には、学習サークル(Studiecirkel)、国民大学(Folkuniversitet)、公立図書館、民衆大学(Folkhögskola)が挙げられる。成人教育としては障害者成人教育機関(Särvux ; Särskild utbildning för vuxna)への進学がある。2013年度(2013年度秋学期から2014年度春学期)成人特別学校の参加者数は4,299人、運営コミュニティ数は194である¹⁾。民衆大学には「成人障害者課程」という課程があり、ここでは障害者が必要な支援を受けながら通学し、特性に合った教育のもと学んでいる。

知的障害高等学校で9つの国定プログラム(Nationella programmet)を履修した相対的に軽度の知的障害者は、就労以外に民衆大学(Folkhögskola)や障害者成人教育機関(Särvux)への進学が検討される。知的障害高等学校で個別プログラム(Individuella programmet)を履修した相対的に中重度の知的障害者は、障害者成人教育機関への進学が検討される²⁾。

では、それぞれにどのような学習が保障されているのであろうか。本稿では、スウェーデンの障害児者に対する学校教育と社会教育の教育課程の接続について関連文献の検討とフルーボーダ民衆大学(Furuboda folkhögskola)における成人障害者教育実践を対象にした現地調査、またその際に収集した資料の検討を通じて考察する。

2. 知的障害特別学校(Grundsärskola)の教育課程

義務教育段階の知的障害特別学校には知的障害基礎学校(Grundsärskola)のみならず訓練学校(Inriktningen träningskola)がある。相対的に軽度の知的障害児が就学する知的障害基礎学校は通常学校としての基礎学校と同じ教科で、個々の子どもに合わせた教育を行う。知的障害基礎学校と基礎学校の教科と時間数を以下の表1に示す。

表1 知的障害基礎学校と基礎学校の教科と授業時間数の比較

教科	知的障害基礎学校	基礎学校
美術	225	230

家庭科	525	118
保健体育	750	500
音楽	395	230
手工	730	330
スウェーデン語	1300	1490
英語	180	480
算数	1005	1020
社会科	695	885
理科	785	800
第二外国語	—	320
選択科目	195	382
合計	6785	6785
学校設置科目	1800	600

出典：Skolverket(2014)Grundsärskolan är till för ditt barn,s.8.

基礎学校と比較すると知的障害基礎学校の特徴は家庭科や体育、音楽、手工などの技能科目が比較的授業時間数が多く、英語の授業時間数は少ないこと、また第二外国語の時間は設定されていないこと、個人の選択科目は少ないが学校設定科目が多いことが指摘できる。

また相対的に重度の知的障害児が就学する訓練学校の教科をあわせた領域と授業時間数は以下である。

表2 訓練学校の領域と授業時間数

領域	授業時間数
芸術活動	995
コミュニケーション	995
運動	995
日常活動	995
現実理解	995
選択科目	150
分配可能な教授時間	1500
合計	6665

出典：Skolverket(2014)Grundsärskolan är till för ditt barn,s.11.

芸術活動(Eстетisk verksamhet)は音楽、美術や手工等の教科領域を意味する。コミュニケーション(Kommunikation)はスウェーデン語と母語等の教科領域を意味する。運動(Motorik)はスポーツと健康等の教科領域を意味する。日常活動(Vardagsaktiviteter)は日常の家庭生活や消費生活、社会科等の教科領域を意味する。現実理解(Verklighetsuppfattning)は理科、技術、算数・数学等の教科領域を意味する³⁾。このように教科を統合した領域として、個々のニーズに合わせて学習活動が構成できる内容になっている。

3. 知的障害高等学校(Gymnasiesärskola)の教育課程

通常教育の高等学校(Gymnasieskolan)に対して、知的障害児には知的障害高等学校(Gymnasiesärskolan)が設置さ

れている。これは義務教育の知的障害学校に接続する学校であり、それぞれの生徒の状態に基づき、学習を深め、生徒の知識を発展させ、労働、生活、余暇を有意義なものにすることをめざす⁴。知的障害のある生徒は通常学校の生徒より学習に時間をかける必要があるため、知的障害高等学校の就学期間は1年長く4年制であり⁵、知的障害高等学校は16歳から20歳を対象としている⁶。ちなみに義務教育段階の知的障害学校の訓練学校課程も1年間就学期間が延長可能である。

知的障害高等学校の選択プログラム(Studieväg)は2013年秋学期から、大きく分けて、以下の9つである。事務、経済、商品管理(administration, handel och varuhantering)プログラム、芸術活動(estetiska verksamheter)プログラム、不動産・施設・建築(fastighet, anläggning och byggnation)プログラム、車両整備と物品管理(fordonsvård och godshantering)プログラム、手工芸と生産(hantverk och produktion)プログラム、ホテル・レストラン・ベーカリー(hotell, restaurang och bageri)プログラム、健康・ケア・福祉(hälsa, vård och omsorg)プログラム、社会・自然・言語(samhälle, natur och språk)プログラム、森林・農業・動物(skog, mark och djur)プログラム、個別プログラム(Individuella program)である⁷。

個別プログラム以外プログラムの共通の教科は、英語、芸術活動、歴史、体育と健康、数学、自然科学、宗教教育、社会科、スウェーデン語または第二言語としてのスウェーデン語⁸である。全体で4年間で2500単位、3600授業時間を保障するが、その内、英語100単位、芸術活動100単位、歴史50単位、体育と健康200単位、数学100単位、自然科学50単位、宗教教育50単位、社会科50単位、スウェーデン語または第二言語としてのスウェーデン語200単位を取得する。

他に例えば健康・ケア・福祉プログラムであれば、屋外レクリエーション、人間の身体、サービス、保育園幼稚園の子どもの学びと発達、ケアと福祉、余暇と健康、サービスと治療(Service och bemötande)などを選択する⁹。またより深く学ぶプログラムなどもある。

個別プログラムは比較的中度もしくは重度の生徒を対象にしており、教科学習のみならず実習(Praktik)を多用す

る。個別プログラムの教科学習は教科領域(ämnesområdet)であり、芸術活動、家庭科と消費者知識、体育と健康、自然と環境、個人と社会、言語とコミュニケーションで構成される¹⁰。

知的障害高等学校の学習指導要領においては、生涯学習したいという欲望(livslång lust att lära)を育成することが強調されており¹¹、社会教育への接続が想定されている。教授法は、それぞれの子どものニーズに合わせて調整しつつ¹²、職業生活と社会生活(yrkes- och samhällslivet)への参加の能力を育成すること¹³を目標としている。知的障害高等学校は義務教育学校との協力のみならず、通常の高等学校成人向けの特別教育(särskild utbildning för vuxna)、基礎自治体(以下、コミューン)立成人学校(kommunal vuxenutbildning)、民衆教育(folkbildningen)と職業高等学校(yrkeshögskolan)との連携も指摘されている¹⁴。

4. 成人学校

成人教育は通常の教育制度であるコミューン立成人学校(Kommunala Vuxenutbildning: KOMVUX)に対応して、知的障害成人学校(särvux)がある。スウェーデンの成人教育の特徴でもあるコミューン立成人学校について説明する。コミューン立成人学校は、1968年にスウェーデンにおいて開始された教育形態で、本来は、児童・青少年を対象とした一般学校制度の改革により、世代間に教育ギャップが生まれてしまう齟齬を短期に解決すること、成人が新しい公教育制度へいつでも戻ってこられるように補助的な補完コースを用意する二つの目的を持つものであった¹⁵。コミューン立成人学校には、義務教育である基礎学校レベルと高等学校レベル、そしてスキルアップのための継続教育レベルがある¹⁶。

知的障害成人学校(särvux)は、1988年から正規にスタートした¹⁷。社会生活や職業生活に参加するための基礎的知識を深め、発達させることをめざす。知的障害成人学校は20歳以上の知的障害者に教育の機会を提供する。知的障害の程度に応じて、以下の3つの内容を提供する。義務教育知的障害特別学校レベルの教育、知的障害高等学校レベルの教育、労働教育である¹⁸。知的障害成人学校ではコミューン立成人学校と同じカリキュラムを用いるが、個人のそ

れまでの教育や経験、前提条件を出発点とするため、個別プログラムが作成される¹⁹。つまり知的障害者に対する成人教育(Vuvenutbildning för utvecklingsstöd)は、義務教育、高校、継続教育の補償をめざしているのである²⁰。

5. 民衆大学

スウェーデンには、寄宿舎付設の高等教育機関である民衆大学(folkhögskola)が存在する²¹。民衆大学はデンマークを発祥の地とする北欧に特徴的な成人教育機関である。スウェーデンには 1868 年に伝えられた²²。もともとは農村の青年たちに教育の機会を与えるものであった²³。現在は労働組合や、協会、県委員会、禁酒運動連盟、その他の非営利団体によって運営されている。2016 年現在 154 校の国民高等学校がある²⁴。もともとは寄宿制であったが、現在は週末だけや、数週間だけの短期の通学コースもある。余暇活動リーダーなどの資格を得られる職業コースもある²⁵。18 歳以上であれば²⁶、入学に際して資格や試験はなく、誰にでも開かれた教育を行うことを原則としている。教育課程は大きく「総合課程」「専門課程」「職業教育課程」「通信課程」「短期課程」「成人障害者課程」の 6 課程に分類されている²⁷。「成人障害者課程」とは、様々な障害を抱える、特別な援助を必要とする成人のための課程である。大きく 10 の症状に分けられてコースが設置されており、症状に合わせた教育を行い、必要に応じて専門家がサポーターとして付く場合もある。工作や歌などの、表現を重視した教育内容を設けているところもあれば、理論的に、自らの症状がどのようなもので、身体がどのような仕組みになっているのかを学ぶ課程もある。これらの違いも各民衆大学による。そのため ADHD やアスペルガー症候群、ディスレキシア、聴覚障害、視覚障害、肢体不自由、知的障害などに対応するコースもある²⁸。

そのなかでフルーボーダ(Furuboda)民衆大学のように、障害者を主たる対象として、障害者の支援者を養成するコースを設定している民衆大学も存在する。

6. 障害者に対する修学支援策

障害者の修学支援策として、障害者は個別の学習計画(Individuell studieplan)を作成する権利があるとされて

いる²⁹。また、スウェーデンの各高等教育機関では、障害者支援のための専任のコーディネーターがおり³⁰、教育プログラムやコースについてのアクセシビリティに関する質問を受け付けている。また、特別な教育支援のための国立機関である社会福祉庁当局(Socialstyrelsens institut för särskilt utbildningsstöd : Sisuus)は、個人的なニーズ支援のサービスを提供する³¹。例えば知的障害者に対しては、特別授業や個人指導、メンター、個人に合わせたシラバスの保障が行われる。

7. Furuboda の実践

7.1 Furuboda の設立と理念

本稿ではフルーボーダ民衆大学(Furuboda folkhögskola)における成人障害者教育実践に注目する。特にフルーボーダ民衆大学は、民衆教育協議会でも認められるほど、成人障害者教育に長けているという点と、歴史的にも障害者を対象とした非営利組織として長く、成人障害者教育実践における経験値が高いためである。フルーボーダ民衆大学の母体となる組織である Furuboda は、1960 年に、障害を持つ人びとへの支援事業として設立された³²。

Furuboda では主に、6 つの事業が行われている。それらは、①Furuboda Assistans AB (フルーボーダ・アシスタント派遣事業) ②Furuboda Arbetsmarknad (フルーボーダ労働市場) ③Furuboda folkhögskola (フルーボーダ民衆大学) ④Furuboda Föreningsform (フルーボーダ組織運営) ⑤Furuboda Kompetenscenter (フルーボーダ・コンピテンスセンター) ⑥Furuboda Konferens (フルーボーダ外部事業) である。「フルーボーダ民衆大学」は、独立した学校ではなく Furuboda の一事業として位置づけられている。そこで、校長や民衆大学事務局、各課程の長が学校運営に携わっている。

民衆大学には、多様な障害に合わせた課程や、IT、音楽、アシスタント養成課程など 9 つの長期課程がある。障害の有無にかかわらず、民衆大学での生活を楽しみ、成長できる場にすることを目指している。さらに夏休暇には、音楽、ドラマ、ゴルフなどのテーマ別に分かれた短期課程も行われている。

7.2 各課程におけるカリキュラム

民衆大学は、以上のような組織体制の一部に位置づけられている。しかし、全ての事業は **Furuboda** として運営されているため各事業は連携している。以下では、民衆大学ではどのような教育事業が行なわれているのか、フルーボード民衆大学における学習カリキュラムを、学校パンフレットと、同校ウェブサイトに載せられている課程案内のファイルを併用して考察する。課程は全9課程あり、それぞれ「総合課程—資格取得(Allmän kurs Behörighet)」 「総合課程—将来(Allmän kurs Framtid)」 「総合課程—社会(Allmän kurs Omvärld)」 「基礎コース(Baskursen)」 「アシスタント養成課程(Assistantkursen)」 「IT課程(IT-kursen)」 「音楽課程(Musiklinjen)」 「音楽ワークショップ課程(Musikverkstan)」 「新たな道をまた…課程(På väg igen…=PVI)」である。課程紹介の順番は、同校のパンフレットに準ずる。

7.3 各課程の目的と内容

7.3.1 総合課程—資格取得課程

本課程は、高等学校卒業程度認定資格を取得できる課程であり、義務教育もしくは高等学校を卒業していない成人が通う。この課程は、民衆大学に必ず設置しなければならない。本課程における目的と学習手法は以下の通りである。

表3 「総合課程—資格取得」における目的

総合課程—自身の選択肢を広げましょう
本課程は、高校卒業程度の学習をしたい人のための課程です。社会科、国語、英語、数学などを学びます。本課程は、あなたの将来の可能性を広げるために、人生におけるより自由な選択の幅を広げます。

学習手法は、「課程のリーダー（担当教員）と共に、あなたの学習プランを決定する。あなたの状況に合わせた落ち着いた環境で、小さなグループで学ぶ。学習中は、教師やアシスタントの支援を受けることができる。時間割表では、あなた独自の学習支援を受けることが可能な時間を設けてある。必要に応じて、放課後に宿題を行う際の援助を受けることができる。全ての学習は、あなたの状況に応じて、高校卒業程度でどのような科目が足りていないか、何科目を達成することができるかなどを配慮して進められる」とされる。

本課程は、「義務教育程度」、「高等学校程度」、「高等学校卒業程度以上」のレベルに分かれて科目が設定されており、参加者がどのレベルで学ぶかによって、そのレベルで必要とされる科目を学んでいく。

表4 「総合課程—資格取得」の教育課程

学習レベル	学習内容
義務教育程度	義務教育（6年次）で必要な国語、英語、数学の知識を学ぶ。ここでの学習を習得した後に、高等学校卒業程度の学習へ進むことができる。
高等学校程度	義務教育の学習を修了しているということを前提に学習を進める。高等教育へ進むには、高等学校卒業程度の学習が必要であるが、高等学校もしくは民衆大学でその資格を得ることができる。 国語、英語、数学、宗教学、理科、歴史と社会科を学ぶ。その他、絵画、体育、スポーツ、遊泳、音楽なども学ぶ。自由選択科目として、普通自動車運転免許証の学科試験の内容を学ぶこともできる。
高校卒業程度以上	単科大学・総合大学に進学するためには、高等学校卒業程度以上の学習が求められる。高等学校卒業程度の学習で合格をもらった人には、高等教育へ進学するための特別な学習の支援を受けることができる。

7.3.2 総合課程—将来・総合課程—社会課程

「総合課程—将来」と「総合課程—社会」という総合課程は、上記の「総合課程—資格取得」と異なり、資格取得を目的としない総合課程であるため、学習内容も多少異なっている。

「総合課程—将来」課程における目標は、「将来に対して準備をすることである。そのためには、労働生活や住まいに関する知識を獲得し、自分自身や将来に対して決定を下し、自立しなければならない。あなたの雇用選択に関して、どのように影響を及ぼすことができるか？自分自身の人生に対して責任を持つ自立した個人として、将来のためにどのような準備ができるのか？という課題について考える」ことである。「総合課程—将来」における学習手法として、「小グループで、各自の状況や目標について考える。将来に向けてより多くの知識を獲得するために、様々な職場に見学に行く。例えば、銀行や商店など。短期・長期のどちらでも、どこかの職場で実習を行うことも可能である」とされている。

一方、「総合課程—社会」課程における目標は、「より良い選択をすることである。あなたの日常生活や人生決定を行うため、出来る限り自立し、自らで選択する。どのよう

にあなたの意見を反映させることができるのか？様々な課題に対し、どのように決定を下すことができるのか？について考える」ことである。学習手法として、「小グループで、各自の状況や目標について考える。課程内の学習と関連して、様々なところに見学に行ったり、外部講師を呼んだりする。どこかの職場で実習を行うことも可能である」とされる。

「自立すること」や「自らの人生に対し決定を下すこと」など手法に関して類似する点がある。しかし両者は並列した課程ではあるが、参加者の希望・適正によってクラス分けや多少のカリキュラムの区別がなされている。また、学校のパンフレットによれば、二者は以下のような違いがある。

表5 「総合課程—将来」の目的

総合課程—将来—あなたの将来のために備えましょう
この課程では、国語、英語、数学、将来のことに関する知識、食事と健康、生活に関する知識などについて学びます。全ての科目に参加することが重要であり、私たちは、あなたのこれまでの人生に違いを持たせることができるよう、あなたと一緒に考えます。この課程では、あなたが出会う新たな人生に対し、準備します。

表6 「総合課程—社会」の目的

総合課程—社会—ここで大人の人生を始めましょう
この課程でも、国語、数学、英語などを学びます。あなたは全ての科目において、日常生活における自分自身の周りの社会と、世界がどのような仕組みになっているのか、という両方について考えます。大きな物事と、小さな物事に関することです。全ては、あなたの人生をより良く考え、大人の人生を始めるためにあるものです。”

「総合課程—将来」は、参加することや人生について考える下地をつくることが目標とされ、「総合課程—社会」は、それらを基に新たな人生を始めるために、実生活に即して考えることが目標とされている。さらに前者では、「労働」や「仕事」など、個人の实生活に焦点化されているのに対し、後者では、より社会的な実学に基づいた人との関係を考えていくことも視野に入れられている。「個人」から「社会」へと視野が広められ、同じ課程内において、プロセスを踏んで学んでいけるよう課程が設定されていることが分かる。

表7 「総合課程—将来」の教育課程

科目	学習内容
言語	言語について一読み、書き、話す、聞く—学ぶ。声を出す勇気をつけることや、日常的な社会の発展のため

	のチャンスを得る。
日常的な数学	日々、様々な数字に出会う。例えば、買い物をしたり、時刻表を見たり、料理、時刻を見る、電話をかけるなど、学校生活を修了した後の生活に必要な数学知識に関することを学ぶ。
基礎的な社会科学	社会がどのような仕組みになっているのかについて学び、議論する。民主主義、人権、法律と権利、メディアリテラシーなど。さらに、様々な手法で情報を得、まとめるという個人作業も各自で行う。
英語	読み書きも含むが、授業内の多くは、正確な英語を話すことを中心に学ぶ。
将来設計	フルーボーダ修了後について考える。住まい、職場、余暇時間など、人生における全てについて一緒に考える。実習の場や、もちろん実習後の職場についても積極的に考える。
労働生活に関する知識	まずは、クラスの中で自己を客観視し、自分の人間性、感情、認識について考える。そして、それぞれの労働生活について考えを深める。職場はどのように機能している？どのように職を探すのか？求人広告を見て、どのように連絡を取るのか？そしてどのように履歴書を書くのだろうか？
歴史／宗教	「宗教」の科目では、世界や身の回りの人びとについて考え、議論する。そのために、世界の宗教の基本的な考え方について学ぶ。様々な背景を持つ人びとの背景や多元主義を学ぶことが目標である。 「歴史」の科目では、時代の変化の流れを概観する。同時に、人びとは活発であり、歴史に影響を及ぼすことができるということについても学ぶ。文学作品を使用し、ある特定の時代について学ぶこともある。
課題別授業	毎週、仕事と将来というテーマを含んだ、身の回りの社会問題について取り組む。その回数回は、各学年で学際的なテーマに取り組む。
日常的な技術	日常的に必要な技術について話し合い、探求する。例えば、機械や電池、印章、エレベーター、テレビ装置など。家具を購入し、それを修理することも日常生活が必要である。
食事と健康	「食事」の科目では、無着色・無香料の食材を使用し、何が身体に良いのか、食べ物はどのように身体に影響を及ぼすのかを考え、話し合いながら料理をつくる。各自が、簡単な料理をつくるようになることが目標である。 「健康」の科目では、健康とは何かに関する知識を深め、自分の「健康プロフィール」を作成し、健康であることの意味について話し合う。
体育／水泳	「体育」では、様々なアクティビティに挑戦する。例えば、ジム、車いすバスケットボール、ランニング、ノルディックウォーキング、ラウンダーズ、ローンボウリングなど。これらへの参加は任意である。 「水泳」では、それぞれの能力に合わせて、水の中でトレーニングと体操を行う。合わせて、水中で移動したり、力を抜いたりすることを学ぶ。
ドラマ or IT 技術	「ドラマ」では、セラピーや即興の手法を使い、楽しく、たくさん笑って、自信やソーシャルスキルを身につける。 「IT 技術」では、Microsoft Office の使い方を学ぶ。
工作 or 音楽	「工作」では、絵や模様を使って、様々な材料や技術を感じ、学ぶ。絵を理解することや、自身の芸術性を身につける。同時に、知覚や自己をコントロールする力を身につける。 「音楽」では、キーボードやギター、ドラム、ベース、その他の楽器を使用し、ロック、ポップ、ダンスミュージックを演奏する。プロのアーティストの音楽を聴いたり、学んだりもする。音楽の歴史や楽器についても学ぶ。

表8 「総合課程—社会」の教育課程

科目	学習内容
言語	言語について一読み、書き、話す、聞く一学ぶ。声を出す勇気をつけることや、日常的な社会の発展のためのチャンスを得る。
日常的な数学	日々、様々な数字に出会う。例えば、買い物をしたり、時刻表を見たり、料理、時刻を見る、電話をかけるなど、学校生活を修了した後の生活に必要な数学知識に関することを学ぶ。
基礎的な社会科学	民主主義、人権、法律と権利、世界中の宗教、多様な文化などについて学び、議論する。さらに、様々な手法で情報を得、まとめるという個人作業も各自で行う。
英語	読み書きも含むが、授業内の多くは、正確な英語を話すことを中心に学ぶ。
地理	「地理」の科目では、動物、自然、犯罪などについて学ぶ。スウェーデン、北欧、ヨーロッパ、世界についても、それぞれのペースで学ぶ。
課題別授業	身の回りの社会問題について学ぶ。その内数回は、各学年で学際的なテーマに取り組む。
科学	植物、動物、天気、環境、エネルギーについて学ぶ。身の回りに関わる全世界について議論する。秋学期・春学期共に、クラス内の自然のものを扱う。実験も行う。
社会的相互作用	対面で話し、相手の話を聴くことや、自分の視点に立って議論すること、評価演習を練習する。様々な、楽しいアクティビティも行う。
余暇・将来に関する知識	「余暇」では、様々な見学を通じて、学校を修了した後の、活発な余暇時間について考える。「将来」では、フルーボーダ修了後の生活に焦点を当てる。住まい、仕事、余暇など。修了したら、どのような人生になるか？見学に行ったり、実習したり、様々な生活様式を見たりする。全ては、後の人生のための準備のためである。
食事／健康	「食事」の科目では、無着色・無香料の食材を使用し、何が身体に良いのか、食べ物どのように身体に影響を及ぼすのかを考え、話し合いながら料理をつくる。各自が、簡単な料理をつくることができ、応用することができるようになることが目標である。「健康」の科目では、健康とは何かに関する知識を深め、自分の「健康プロフィール」を作成し、健康であることの意味について議論する。
水泳／体育	「体育」では、様々なアクティビティに挑戦する。例えば、ジム、車いすバスケットボール、ランニング、ノルディックウォーキング、ラウンダーズ、ローンボウリングなど。これらへの参加は任意である。「水泳」では、それぞれの能力に合わせて、水中におけるトレーニングと体操を行う。合わせて、水中で移動したり、力を抜いたりすることを学ぶ。
ドラマ or IT	「ドラマ」では、セラピーや即興の手法を使い、楽しく、たくさん笑って、自信やソーシャルスキルを身につける。「IT技術」では、Microsoft Office の使い方を学ぶ。
工作 or 音楽	「工作」では、絵や模様を使って、様々な材料や技術を感じ、学ぶ。絵を理解することや、自身の芸術性を身につける。同時に、知覚や自己をコントロールする力を身につける。「音楽」では、キーボードやギター、ドラム、ベース、その他の楽器を使用し、ロック、ポップ、ダンスミュージックを演奏する。プロのアーティストやバンドの音楽を聴いたり、学んだりもする。音楽の歴史や楽器についても学ぶ。

7.3.3 基礎コース課程

上記の（資格取得を目的としない）総合課程と比べ、さらに学習よりも、より参加することを目的とした課程が基

礎コースである。学校のパンフレットには以下のように記されている。

表9 「基礎コース」の目的

“基礎コース—あなたのペースで成長しましょう
基礎コースは、知識と協力を身につけるための出会いの場です。私たちは、あなたの希望を前提とし、それらをコースの内容に反映します。たくさんの課題別授業時間を設けているので、あなたはそれに参加することが重要です。他の人たちと何か一緒に学びたいという方向きのコースです。障害に関する相談にも乗ります。”

学習手法としては、「教員が各自の状況に配慮しながら、小グループで学習を進める。課程内の学習内容や学習構成に、あなたの意見を反映させることができる。あなたの日常生活で起きたことや、興味・関心に沿って意見交換を交わす機会もある」とされている。科目は、（資格取得を目的としない）総合課程と類似する点が多いが数は少なく、コース紹介文からも分かるように、まず、参加をすることが大前提であり、属するクラスへの参加を促すコース内容である。課程における目標は定められておらず、より自由で、各自のペースに合わせてようとする開放的な学習体系を心掛けていることが分かる。実際、本コースに通う参加者は、ダウン症や自閉症を抱えるが多く、長時間机に座って学習をすることが困難な人もいる。その場合、無理強いをせず、その人のペースに合わせて学習を進められるよう配慮されている。

表10 「基礎コース」の教育課程

科目	学習内容
言語	スウェーデン語の基礎的な、読む、書く、話す、聞く、について学ぶ。語彙を増やし、あなたのファンタジーを広げる。口頭発表や、リサーチ作業も行う。英語の簡単な文章を読んだり、聴いたりして、日常の言葉をつなげて簡単な意味や文章を作成したりもする。当然、「ドラマ」も科目内に含まれる。
理科	特に、身の回りの植物や動物について学び、少々、天気や自然環境について学ぶ。身近な全世界の一部について、少々議論を交わす。秋と春に、自然を活用して学ぶ。
日常生活に関する知識	この科目では、あなたの日常がどのような仕組みになっているのかについて考える。状況によって実践と理論を学ぶ。全ては、あなたのニーズによる。
日常的な技術	電気はどこから来るのか？電球はどのように変えるのか？壁に物を掛けるにはどのようなやり方が一番良いのだろうか？日々の様々な機材の正しい使い方について学ぶ。
絵画	この科目では、思考、言葉、行動を表現する一つの手法を学ぶ。感情をはき出すために、様々な技術や材料を使用し、想像力や表現力を身につけ、絵を理解する力を発展させることを目指す。同時に、知覚や自己をコントロールする力、集中力を身につける。
音楽	他の人びとと、一緒に歌ったり、演奏したりするこ

	とを学ぶ。ダンスなどを通じて、身体の動作による表現についても学ぶ。
数学	年号の理解や、数の概念について、数字や記号を通じて学ぶ。これまで学んだことを活かし、お金の価値や、足し算・引き算の計算についても可能な範囲で学ぶ。
家庭科	感覚を大切に、炊事したり、お菓子やパンを焼いたりすることを学ぶ。栄養や食糧の扱い方、食文化についても簡単に学ぶ。さらに、居住環境や掃除、洗濯、住居設備、織物製品に関する知識も得る。この科目では、環境的視点から考えることが主要テーマである。
体育／運動／水泳	全ての参加者が、運動や身体を動かして楽しむことを前提とする。体育館や屋外で様々なアクティビティに挑戦する。授業内では、コーディネーショントレーニングや球技、ストレッチ、コンディショニングトレーニング、リラクゼーショントレーニングも行う。遊び感覚で取り組むため、音楽を使うこともあり、全ては、参加者が快楽を得ることや身体を動かすことの楽しさを感じるためのものである。プールでは、水に慣れつつ、能力に合わせて水中でのトレーニングを行う。

7.3.4 アシスタント養成課程

本課程は、他の課程と異なり、障害者にかかわる職に就きたい人や、障害者アシスタントになりたい人のための職業資格取得を目的とする職業課程である。本課程に入学申請するためには、高等学校を卒業しているか、卒業程度の学力があると認定されていなければならない。学校パンフレットには、以下のように説明されている。

表 11 「アシスタント養成課程」の目的

アシスタント養成課程一人と接して働く 家や学校、職場でアシスタントを必要とする人びとのために働きたいという人のための課程です。課程内では、実践と理論の両者を学びます。ここでの学習は、事前知識、個人作業、グループディスカッションによって構成されます。毎学期、3 週間の実習を行います。障害者支援／サービスに関する法律(LSS)には、障害者の人が個別のアシスタントを有する権利があることが記されており、協同組合やコミュニティを通じてアシスタントの派遣依頼を申請することができます。Furuboda は 1967 年から、アシスタントを養成してきたという経験があります。”
--

実習は、フルーボーダにおける他の課程で行うことができ、さらに課程修了後は面接を経てフルーボーダに就職することも可能である。民衆大学内で、経験豊富なアシスタントを養成・雇用することが可能となっている。専門的な知識を学ぶとともに、アシスタント自身の人間性を磨くための音楽や絵画などの科目も学ぶ。このような全参加者が「人」として成長することを目的とするような学習手法は、民衆大学の特徴とも言える。

表 12 「アシスタント養成課程」の教育課程

科目	学習内容
心理学	様々な心理学における理論や理念の基礎的知識を身につけることが目標である。例えば、学習、発達、動機、社会的相互作用、アシスタント固有の視点、危機管理、課題処理、ボディ・ランゲージの意義について学ぶ。様々な心理学的病気に関する知識や人格障害についても学ぶ。
倫理学	倫理と道徳、倫理的視点、前提となる価値観、規範と規律、人間社会・文化、人間性、様々な哲学の系譜、労働倫理について学ぶ。一部は、アシスタントの役割と関連して学ぶ。この科目における目的は、それぞれの人間性や態度、対応に自覚的になることである。
教育学	子どもや成人に関わる学習や発達、人間性、認識について、様々な教育学的理論の基本を学ぶ。学校で困難を抱える生徒たちに対し、アシスタントはどのような支援ができるのか、ということに関連して学んでいく。
障害に関する知識	様々な障害に関する知識や、先天的・後天的(CNS)、(LSS)、人が生きる社会、アシスタントの技術について学ぶ。さらに、神経心理学的障害についても学ぶ。
ハンディキャップ政策	支援を必要とする人に対する、社会における支援体制について学ぶ。
音楽／リズム	子ども、若者、大人の学習と発達は基本である。表現をすることとしての音楽の意義は、重要である。音楽を聴く、遊びと音楽、手拍子とダンス遊び、リズム体操、歌とアンサンブルも学習内容に含まれる。
絵画／図	絵画や図についてアシスタントという視点から取り組む。目的は、アシスタントと参加者の相互作用を育む練習をすることである。障害者に適切な補助機材や技術、方法を実際に使ってみる。個人の創造力を育むことももちろん可能である。
サポート文字	学校、住居、その他日常で活躍するアシスタント向けの基礎的な学習に取り組む。
AKK ³³	AKK に関する基礎的知識や、どのように不足している言葉や会話を補うことができるのか学ぶ。AKK は、ジェスチャーや表情、文字・記号、絵や文章、さらに、ユーザーやツール、周囲の人びとの協力によって成り立つものである。
余暇に関する知識／団体に関する知識	障害者向けのスポーツなどのボランティアセクターが、余暇時間にどのような機能を果たすのかについて学ぶ。
人間工学の要素を含んだ運動	筋骨格傷害を予防し管理するために、負荷や運動技術、補助器具、さらにセルフケアやトレーニングは、どのように身体に影響を及ぼすのか、ということに関する知識を身につける。
薬学 1(基礎)	人体の構造と機能、微生物やその経路、衛生基準、一般的な医学状態、症状、治療法、治験、薬について学ぶ。さらに、HLR(Hjärt/Lungräddning=心臓／蘇生法)教育もある。毎学期、3 週間の実習と各自の関心を深める個人作業にも取り組む。必要であれば、基礎的な IT 知識を学ぶこともできる。

7.3.5 IT 課程

本課程は、コンピューターやメディアに関心のある人びとが学びにくるため、障害の有無は関係ない。作業は個人で行うことが多く、支援が必要な人にはアシスタントがつく。しかし、個人作業だけでなく共同で一つの作品をつく

ることもあるため、協力しながら学習を進めることもある。パンフレットに記されている課程紹介は以下の通りである。

表 13 「IT 課程」の目的

IT 課程—パソコンであなたの創造力を発展させましょう この課程における目標は、IT 分野に関する知識を増やすことです。印刷や画像加工、コンピューター・グラフィック、インターネット及び様々なアプリケーションについても学びます。さらに、画像、音楽、フォトグラフィック、ライティングについても学びます。参加者全ての状況やニーズに合わせて学習を進めます。各自の学習目標、ライティング補助器具、その他教育学的プログラムもカリキュラム内に含まれます。”
--

また、学習目標として「本課程の主たる目標は、IT 分野におけるあなたの知識を増やすことである。画像の加工や、コンピューター・グラフィック、ホームページやインターネットプログラムなどを学ぶ。画像や写真、ライティング、音楽、食事や家庭科に関する知識を深める。日常における数学や英語も、自由選択科目として学ぶことができる。課程では、各参加者のニーズや状況に合わせて学習を進める。そのため、参加者各自の学習目標を設定する。例えば、(文字を書くことが難しい人の場合) ライティング補助機材や代替補完技術の使用方法を学んだり、記憶力のトレーニングなども学習内容に含まれる」とされている。

学習手法として、「本課程では、各参加者の状況に合わせて学習を進める。それぞれの関心や課題に合わせて特別なトレーニングを行う。各自の成長と目標が最も重要である。それぞれが望む方向で各学期を進めることができる」とされる。

IT 課程は、他の課程よりも多様な人びとが学びに来ている。高等学校を卒業した後、IT について学びたいという人や、障害を抱え自由に動くことはできないが IT を駆使することで可能性を広げたいと考える人など、参加者のニーズは様々である。それでも、いかにそのニーズをすり合わせるのか、「週間計画」という時間を設けて参加者全員でディスカッションを行う。この時間は他の課程にはなく、参加者のニーズがより幅広い本課程の特色であると言える。

表 14 「IT 課程」の教育課程

科目	学習内容
IT(Office、)	様々なコンピュータープログラムについて学ぶ。

Adobe Design&Web-Premium CS6、理論)	Office や Adobe Indesign、フォトショップなどを日常的に使用する。さらに、ブログやホームページの作成、映画製作、グラフィックデザインを行う。学年末には、クラスアクティビティなども行い、制作物の発表会を行う。
写真	デジタルカメラを使用し、様々な対象を撮影しながら、カメラの機能や可能性について学ぶ。
絵画	絵画は、コミュニケーションを取る一つの手法である。考えや感情を表現する一つの手法である。様々な技術や材料を使用し、物の制作過程について学ぶ。全ての参加者が、ものづくりに関して何かしら学ぶことが目標である。
言語	読む、書く、話す、聞くことについて学ぶ。声をあげることや話す技術を身につけることが目標である。
社会科	身の回りの社会や、現在のニュースについてディスカッションを行う。
食事と家庭科	新たな料理を作る際、意向や創造がキーワードとなる。それぞれの炊事に関するイメージや、食べ物が理論的・実践的にどのように身体に影響を及ぼすか、また、食物の新しい使用方法について学ぶ。
体育/運動	体育館では、参加者全員が参加できる様々なアクティビティを行う。隔週で、プールでトレーニングを行うことも可能である。
週間計画	一週間の計画についてディスカッションする。クラスがより良くなるよう、皆で一緒に可能性を考える。
英語/数学(選択科目)	英語では、小さなグループで、各自のニーズに合わせてスピーキング、読み、書きについて学ぶ。数学でも小さなグループで、各自のレベルに合わせて学習を行う。これまでの成績を上げることも可能である。

7.3.6 音楽課程

本課程は、アシスタント養成課程同様、入学時で既に高等学校卒業程度の学習を修了しており、音楽大学で音楽についてさらに学びたいという人のための予備校のような位置づけとなっている。ただし、必ずしも大学進学を目指す人ばかりではなく、高等学校では足りなかったところを補ったり、異なる分野で仕事をしていたり学んでいたが、音楽について学びたいと思った人が入学する。

表 15 「音楽課程」の目的

“音楽課程—アフロビート、ポップ、ロック、ソウル 音楽に強い関心がありますか？この課程は、音楽大学入学に向けて準備をするコースです。1~2年かけて、得意とする楽器の技術を磨きます。個人の技術を磨くと同時に、アンサンブルも学びます。特別講師を呼び、コンサートやセミナー、ワークショップも行います。”

本課程は、以下の学習手法で進められる。「5~8名で、ドラム、ベース、ピアノ/キーボード、ギター、歌のアンサンブルに取り組む。演奏会では、グループで行う。また、コンサートやセミナー、ワークショップ、個人の関心に基づいた様々なプロジェクトへの参加も行う。ジャンルは、

ポップ・ミュージック、ロック・ミュージック、ソウル・ミュージック、スリック、ファンク・ミュージック、ブルースなどで、古典クラシック・ミュージックから、最新のヒットソングを扱う。ジャンル／音は自由に選択することができ、各自が好む音楽を深めることができる。多くの期間、プロジェクトに取り組み、ラテン・ミュージックや、ジャズ、特定のアーティスト／グループに関する知識を深める。音楽大学に進学したいという場合、進学試験に向けて個別に指導を受けることができる。ただし、各自で理論的な学習や音楽の練習をすることが求められる」とされる。

表 16 「音楽課程」の教育課程

科目	学習内容
アンサンブル	様々な形態のアンサンブルについて学ぶことは、音楽や楽器に関する理解を深め、演奏能力を高めることができる。ポップやロック、ソウルなど多様なタイプの音楽形態、ハーモニー、リトミックに挑戦する。
メインの楽器	各自のアーティスト性、個性を活かした担当楽器・ボーカルの能力を伸ばす。レパートリー、アーティスト的な姿、ミュージカル的コミュニケーション、演奏／歌の技術、タイミング、アカペラ、フォームと構成、音調調整などについて学ぶ。
第二楽器アンサンブル	ドラム、ベース、ギター、キーボード、歌に関する実践的・理論的な知識を身につける。
音楽学／聴覚	音楽学や聴覚に関する基礎的な分析及び分析手法、移調、調和、アレンジ、様々な楽器の役割、ロックやポップ・ミュージックの伝統的なメロディーについて学ぶ。
舞台公演会	個人的な表現の仕方を学び、コミュニケーション能力、洞察力、即興力を高める。ダンスやドラマ、アンサンブル、リトミック、その他各自の関心のある手法で取り組む。
ロック・ミュージックの歴史	ポップ／ロック・ミュージックの社会的、文化的、歴史的な成り立ちについて学ぶ。各自の関心と、大衆音楽の歴史との関連において重要なスタイルやアーティストについて知見を深める。
パーカッションアンサンブル	グループに分かれ、様々なリトミックの形、ポリリトミック、世界各地のリトミックのスタイルについて学ぶ。
ボーカルアンサンブル	外部のアカペラグループと共にコンサートに参加する機会がある。さらに、スタジオを借りて演奏をすることも可能である。舞台技術について、実際にスタジオを訪問し学ぶ。
その他(オプション)	各楽器の練習を行う。

7.3.7 音楽ワークショップ課程

本課程もまた、音楽について学ぶが、上記の音楽課程とは異なり高等学校卒業程度の学力は求められず、大学進学も目指さない。どちらかと言えば、障害のある人が表現について学んだり、コミュニケーションの手段を増やしたり

する課程として位置づけられる。基本的には、障害の有無に関わらず音楽好きな人が参加している。

表 17 「音楽ワークショップ課程」の目的

“音楽ワークショップ課程——一緒に演奏します
バンドで演奏したいですか？この課程では、アンサンブルを通して様々な楽器を演奏し、作曲や作詞にも挑戦します。必要に応じて、拡大・代替補完的コミュニケーション機材を使用することも可能です。課程は、障害がある人を前提にしています。”

学習の手法としては、「様々な楽器に挑戦し、他の人と一緒に演奏する。共同で演奏する喜びを通じて、演奏家としても人としても成長する。歌詞を書いたり、作曲をしたりするために、各自のレベルに合わせてコンピューターも活用する。音楽に関連して、発声や会話、代替補完的コミュニケーションをトレーニングすることもできる。もし、筆記やコミュニケーションに補助器具を必要とする場合などは、出身のコミュニティや県／地区と連携し支援を受ける」とされる。

カリキュラムでは前述の「音楽課程」と比較すると、理論や机上の学習内容は少なく、より音楽に触れることや日常生活の自立に焦点が当てられている。また、「音楽課程」では高等学校卒業（もしくは相当する資格取得）をしていることが望ましいとされるが、「音楽ワークショップ課程」における募集要項の条件は定められておらず、誰でも参加できる。実際、クラスには車いす利用者や発達障害を抱える人びとの参加は多く、「基礎コース」のように参加することが最初の目的であると考えられる。

表 18 「音楽ワークショップ課程」の教育課程

科目	学習内容
アンサンブル演奏	ロック、ポップ、ダンスミュージックを演奏し、歌う。練習を重ね、公の場で発表することを目指す。キーボードやギター、ベース、ドラム、その他適切な楽器や iPad、コンピューターを用いる。参加者全てが参加することが望ましい。
ライティングワークショップ	語りや記述の力を伸ばす。パソコンで小説や歌詞、ブログなどを使用する。
実験ワークショップ	感情を表現するために、音や音楽を用いて学ぶ。記録技術、音の効果、映像などを使用し創造的に取り組む。
音楽と工作	創造的に皆で音をつくり、音の効果を学び、表現技法の一つとしての音楽を学ぶ。
音楽の歴史と社会に関する知識	ポップ・ミュージックの歴史や、日常で起きているニュースについて学び、ディスカッションをして、知識を身につける。
声／楽器トレーニング	歌や楽器演奏の技術の基礎について学び、音楽家として客観的な視点から能力を伸ばす。
ドラマ	様々なシーンにおいて、ボディ・ランゲージや発

	話を通じてトレーニングを行う。インプロや映像を使用する。
絵画	絵を描くことは、コミュニケーションを取る一つの手法である。考えや感情を表現する一つの手法である。様々な技術や材料を使用し、物の制作過程について学ぶ。
食事と健康	ここでは、簡単な神経の構造や、どのように身体が機能しているのかなどについて学ぶ。さらに、より体調を良くするためのアクティブな余暇時間について考える。スポーツや、多様な余暇時間のグループ、その他のアクティブな活動について学ぶ。
体育	体育館やジムで、様々なアクティビティに挑戦する。各参加者の興味や能力に合わせて進める。
日常的な数学／英語(選択科目)	数学や英語に関して学ぶ機会を設けている。どちらを学びたいか、各自で選択することができる。
社会に関する知識	各自がすでに持っている関心や能力に合わせて学習を進める。ここでは、世界や社会、ニュース、文化、近代技術について学ぶ。他者に関する理解をより深め、各自のペースで民主的な市民として成長することを目指す。

7.3.8 新たな道をまた…課程 (通称 PVI)

本課程は他の課程と異なり、高次脳機能障害を抱える人に特化した課程である。本課程に通う人びとは、これまで重い障害を抱えずに生きてきており、突如自由に身体を動かさない障害を抱えることになってしまった人びとである。

表 19 「新たな道をまた…課程 (通称 PVI)」の目的

新たな道をまた…課程—高次脳機能障害を抱える人 成人してから脳に障害を抱えたり、軽度の身体的障害を抱えたりしましたか？もしかすると、記憶や集中、遂行に困難を抱えているかもしれません。この課程では、感情を強め、より良いコミュニケーションを取ることができるよう学びます。さらに、あなたの日常がより良く機能するよう、実践的に新たなやり方を構築します。

本課程における目的は以下の通りである。「この課程では、過去に習ったことと、新たなことについて学ぶ。新たな日常生活を送るための方法を考える。感情や脳障害に対する認識を深める。工作や理論的な科目で、記憶力や集中力、コミュニケーション技術を伸ばすようトレーニングする」。

また、学習手法については、「小グループで、出身の自治体から承認された治療スケジュールと組み合わせて学ぶ。適切な学習環境のために、豊かな自然と、教育者、アシスタント、治療スタッフで構成されたチームが置かれる。校内には、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、アドバイザーがいる。参加者の状況に合わせて、将来に向けての各自の目標を一緒に定める。これらは、日常／学校、余暇を

スムーズに過ごすための新しい手法を身につけるためである」とされる。

前述のように、本課程の参加者は身体の機能障害や記憶障害を抱える人が多いため、特別なカリキュラム構成が必要となるのではないかと考えられる。

どの課程も、各自のペースに合わせて適切な支援を受けながら学習を進めることが推奨されている。アシスタント養成課程においては、様々な症状を学ぶ専門的な知識を身に付け、その知識や経験を活かすことが目指され、そのような思考を持った人びとが対象者と関わりを持っていることが分かる。いずれも、参加者のニーズに適した教育を行っていることが分かる。

表 20 「新たな道をまた…課程(PVI 課程)」の教育課程

科目	学習内容
カレンダー	カレンダーから一日を始める。個別のカレンダーを確認し、一日をクリアできるようにする。週末は、一週間の振り返りを行う。
朝のストレッチ	朝の簡単な運動を行う。棒を使用した運動や、バランス、手の運動など、毎日異なるテーマで行う。
私の毎日	日常的な動作に関して、新しい補助機材や手法に挑戦する。キッチンでは食事をつくる。テーマは、「脳にとって良い食事」で、家族や友人を招待する。また、洗濯やアイロンがけ、買い物についてもトレーニングを行う。
Mindfulness	選択を迫られた際などの適切な選択の仕方について学ぶ。痛みや、心配事やストレスの解消法について補助する。寝やすくなり、重視すべきことに集中することが楽になったりすることができる。
写真／パソコン	記憶として、毎日写真を撮る。写真のデザインやパワーポイント、写真日記、ブログなどを学ぶ。Skype やソーシャルメディアの使用法についても学び、離れている人との連絡を円滑に行えるようにする。
絵画	絵を描くことは、コミュニケーションを取る一つの手法である。考えや感情を表現する一つの手法である。時には、絵だけでは不十分な場合もある。様々な技術や材料を用いて、物がつくられる過程と成果を学ぶ。認知やコーディネートについてもトレーニングを行う。
課題別(言語に関するトレーニング)	読み書きの技術を磨くことが目標である。様々なテーマで言語に関するトレーニングを行う。一つは、記憶のトレーニングであり記録力を高めるためパソコンのプログラムを活用する。二つ目は、洞察力を高める。新聞を読んだり、抄録を書いたり、脳がどのように機能しているのか、脳はどのような刺激を受けるのかなどについて学ぶ。
余暇に関する知識	学習修了後の生活で、アクティブな余暇を過ごすために、どのようなアクティビティがあるのか試す。チームを組んで、相手のために余暇での文化的な活動の計画を立ててあげる。さらに、自らのコミュニティで、どのような活動があるのか調べたり、余暇活動を行うグループについて調べたりする。
体育／遊泳	ゴルフや車いすラグビー、ノルディックウォーキング、オリエンテーション、サイクリング、ラウンダーズ、ボウリングなどに挑戦する。プールで

	は、水中運動や水泳を行う。
社会科	障害者の視点から権利と義務について考える。 LSS 法や各コミュニケーション取り組み、コンタクト・パーソン、短期滞在、日常的な仕事、社会サービス、助成、障害者の状況、住居の適正などについて学ぶ。

8. 総合考察

本稿では、スウェーデンの障害児者に対する学校教育と社会教育の教育課程の接続について、関連文献の検討と特に1つの民衆大学における成人障害者教育実践を対象に、現地調査の際に収集した資料の検討を通じて、考察した。

まず義務教育段階では、相対的に軽度の知的障害児が就学する知的障害基礎学校は通常学校としての基礎学校と同じ教科で、個々の子どもに合わせた教育を行っており、相対的に重度の知的障害児が就学する訓練学校は教科を統合した領域として、個々のニーズに合わせて学習活動が構成できる内容になっていた。そのような教科を主体として学ぶか、領域を主体として学ぶかは、後期中等教育としての知的障害高等学校においても引き継がれていた。具体的には、知的障害高等学校は2013年秋学期から、大きく9つのプログラムが設定されており、共有科目としての教科学習を維持しつつ、社会生活移行に必要な学習を行うプログラムと、領域としての学習を進めつつも実習を中心として学びを深める個別プログラムが設定されていた。前者が比較的軽度の知的障害児を対象としており、後者が比較的は重度の知的障害児を対象としている。知的障害高等学校の学習指導要領においても生涯教育への接続が目指されており、成人教育においては通常教育制度であるコミュニケーション立成人学校に対応して、知的障害成人学校が設置されている。またスウェーデンには、寄宿舎付設の高等教育機関である民衆大学が存在するがその教育課程の1つとして「成人障害者課程」があることも学校教育のみならず社会教育としても教育が継続されることを想定していると言えよう。

障害者の修学支援策として、障害者は個別の学習計画を作成する権利があると政府公式報告書にも記されており、障害児者の学ぶ権利はスウェーデンのリカレント教育に明確に位置付けられている。実際の障害者を対象とした民衆大学の教育課程の検討からは、高等学校卒業程度認定資格取得を目指す課程、「参加」を目的とした基礎的なコー

ス、障害の有無にかかわらず技能を獲得するIT課程など多様な参加の機会が保障されていた。

一方で、「成人障害者課程」のある民衆大学に障害者支援者の育成のためのアシスタント養成課程があったり、音楽についてさらに学びたいという非障害者のための課程があったりと、障害者と非障害者がともに学ぶ場としての、教育における場の統合が具現化していた。また音楽に関連して、障害のある人が表現について学んだり、コミュニケーションの手段を増やしたりする音楽ワークショップ課程も開設されるなど、通常教育と特別教育の区別のない「インクルーシブ教育」が具体化されていた。

その上で、高次脳機能障害のある人に特化した課程も設定するなど、専門性の高い教育課程も準備されており、総合性と専門性の同時追求が行われていると言えよう。

このように民衆大学などの成人が学ぶ場は、学校では十分に組み込まなかったことに対し、引き続き挑戦することができるという学校教育の補完的機能を有している。よって、義務教育から民衆教育までの場において、生涯にわたり障害を抱える人びとの労働・生活・余暇を有意義にするための取り組みがなされていることが明らかになった。

註・引用文献

- 1 Sveriges officiella statistik, Samtliga skolformer och fritidshem – Barn/elever – Riksnivå.
- 2 是永かな子(2012)スウェーデン・パティレ市における知的障害者の就労支援—日中活動保障から一般就労への移行支援に注目して—『高知大学学術研究報告』61, pp.17-24.
- 3 Skolverket(2014)Grundsärskolan är till för ditt barn.s.10.
- 4 Britta Alin Åkerman&Curt Strinnholm(1997) Specialundervisningen i Sverige, Institutionen för Specialpedagogik Lärarhögskolan i Stockholm s.17.
- 5 Skolverket(2014)Den nya gymnasiesärskolan Borlange den 13 maj 2014.
- 6 Britta Alin Åkerman&Curt Strinnholm(1997),s.17.
- 7 Skolverket 公式 Web サイト, Studievägs-koder nationella program, https://www.skolverket.se/polopoly_fs/1.116261!/Studi evägs-koder_ver47.pdf. アクセス日:2018年1月31日。
- 8 Skolverket Web サイト, <https://www.skolverket.se/loroplaner-amnen-och-kurs er/gymnasieutbildning/gymnasiesarskola>.
- 9 Skolverket(2014)Den nya gymnasiesärskolan Borlange den 13 maj 2014.
- 10 Skolverket Web サイト, <https://www.skolverket.se/loroplaner-amnen-och-kurs er/gymnasieutbildning/gymnasiesarskola>. アクセス日:2013年10月26日。
- 11 Skolverket(2013)Läroplan för

gymnasiesärskolan,S.5.

¹² Skolverket(2013)Läroplan för

gymnasiesärskolan,S.6.

¹³ Skolverket(2013)Läroplan för gymnasiesärskolan,S.7.

¹⁴ Skolverket(2013)Läroplan för gymnasiesärskolan,S.9.

¹⁵ 三瓶恵子(1997)14章 教育制度『スウェーデンハンドブック』早稲田大学出版部,p.191.

¹⁶ Utbildningsdepartment(1994),s.7.,Kommunal vuxenutbildning,スウェーデン政府公式 Web サイト <http://www.regeringen.se/sb/d/2508/a/20011>. アクセス日:2013年10月26日。

¹⁷ 二文字理明(2002)第1章 教育『スウェーデンにみる個性重視社会』桜井書店,p.28.

¹⁸ Britta Alin Åkerman&Curt Strinnholm(1997),s.18.

¹⁹ Utbildningsdepartment(1994),s.11.

²⁰ SOU2004:98,s.188.

²¹ SOU2004:98,s.204.

²² 民衆大学公式 Web サイト, <http://www.folkhogskola.nu/>.アクセス日:2018年1月31日。

²³ 中嶋博(1992)8 教育と研究『スウェーデンハンドブック』早稲田大学出版部,p.155.

²⁴ 国民高等学校公式 Web サイト, <http://www.folkhogskola.nu/>.アクセス日:2018年1月31日。

²⁵ 三瓶(1997),p.190.

²⁶ 二文字理明(1993)第6章 教育『スウェーデンの生活者社会』青木書店,p.129.

²⁷ 「総合課程」では主に、義務教育やそれ以上の教育が不足している満18歳以上の成人を対象に、高等学校卒業に相当する教育を行っている。スウェーデン語や英語、数学、理科、社会科、宗教学などの基礎科目に加え、各民衆大学の個性を活かした専攻も各校が設置しており、参加者は興味や関心のある分野も同時に学ぶことができる。この課程は民衆大学の核ともいえる課程で、全民衆大学に設置されなければならない。「専門課程」では基本的に高等学校を修了している成人を対象とし、総合課程とは異なり職業を視野に入れた専門性のある教育が行われ、同様に「職業教育課程」も専門課程に含まれているが専門課程よりもさらに職業を重視した教育が行われている。専門課程においては、専門分野に関する初歩的な知識を身に付けることを目的とし、職業教育課程ではすでに職に就いている人などに向けて、さらなる知識の向上や資格取得を目的としている。そのため、専門課程では専門分野に関する知識が全くなくても入学することができるのに対し、職業教育課程では専門分野に関する初歩的な知識は備えていることを前提に教育が行われている。いずれも多くの民衆大学で総合課程と並列して展開されており、民衆大学における教育課程の二つ目の軸とも言える。「通信課程」においては、上記のような総合課程や専門課程での学習を、インターネットを利用し在宅で学ぶことができる。定められた日数の通学を必要とする場合もある。この課程も多くの民衆大学に設置されている。「短期課程」は上記4つの課程と少々異なり、唯一満13歳からの参加が可能である。1日から14日間の課程であり、15日間以上の課程は長期

課程である。専門性を身に付けることよりも、幅広い年代の人に休暇などを活用し学習を保障することが目的であり、趣味のような感覚で気楽に参加することができるコースもある。ほとんどの民衆大学で週末や長期休暇を利用し開講されている。Folkhogskola.nu, 入手先 URL:<http://www.folkhogskola.nu/>, アクセス日:2013年10月26日。

²⁸ 民衆大学公式 Web サイト, <http://www.folkhogskola.nu/>.アクセス日:2018年1月31日。

²⁹ SOU2004:98,s.191

³⁰ 障害をもつ学生のための公式 Web サイト, www.studeramedfunktionshinder.nu. アクセス日:2018年1月31日。

³¹ 特別な教育支援のための社会福祉庁当局公式 Web サイト,www.sisus.se. アクセス日:2018年1月31日。

³² Furuboda 公式 Web サイト, 入手先 URL:<http://furuboda.org/om-oss/historia/>, アクセス日:2014年8月14日。

³³ Alternativ och Kompletterande Kommunikation=Alternative Complementary Communication:「代替補完的コミュニケーション」の略称。